

ドイツ自転車市況－2017

ドイツ二輪産業協会(ZIV)は、この程2017年のドイツ自転車産業関連統計数値を公表した。これを基に、同協会が発表した過去のデータと併せ、ドイツの自転車市況の動向について取りまとめたので報告する。

1. 国内生産及び出荷

ドイツ二輪産業協会(ZIV)によると、2017年のドイツの自転車生産台数(電動自転車を含む)は前年比12.2%減の173万台となり、昨年に続いて大きく落ち込んだ。ドイツの自転車生産台数の過去10年間の推移を表1に示す。

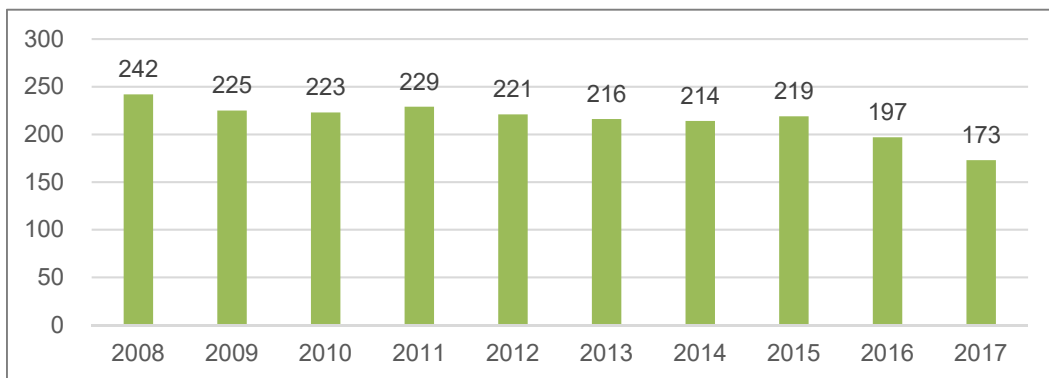
表1 ドイツの自転車生産台数の過去10年間の推移

年	生産台数(単位:万台)
2008	242
2009	225
2010	223
2011	229
2012	221
2013	216
2014	214
2015	219
2016	197
2017	173

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表1に示した推移をグラフで示したものが図Aである。生産台数は減少傾向にあることがわかる。

図A ドイツの自転車生産台数の過去10年間の推移(単位：万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

また、2017年ドイツ国内の自転車出荷台数(電動自転車を含む)は前年比4.9%減の385万台となり、2年続けて減少した。ドイツの自転車出荷台数の過去10年間の推移を表2に示す。

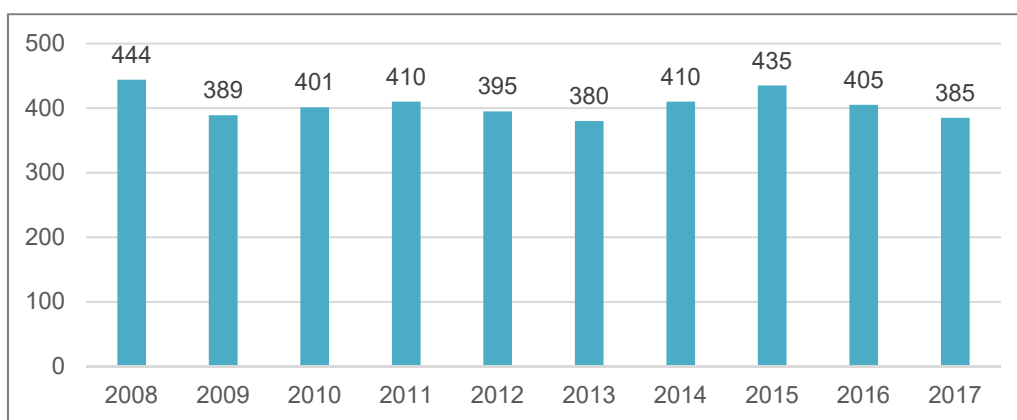
表2 ドイツの自転車出荷台数の過去10年間の推移

年	出荷台数(単位:万台)
2008	444
2009	389
2010	401
2011	410
2012	395
2013	380
2014	410
2015	435
2016	405
2017	385

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表2に示した推移をグラフで示したものが図Bである。出荷台数は一定の範囲内で増減を繰り返しており、生産台数のような減少傾向にあるとは言えないことがわかる。

図B ドイツの自転車出荷台数の過去10年間の推移(単位：万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

一方、金額であらわされる自転車市場規模(電動自転車を含む)については、前年比3.5%増の26.9億ユーロ(3,497億円)となり、ここ5年増加を続けている。自転車市場規模の過去7年間の推移を参考1に示す。

参考1 自転車市場規模の過去7年間の推移

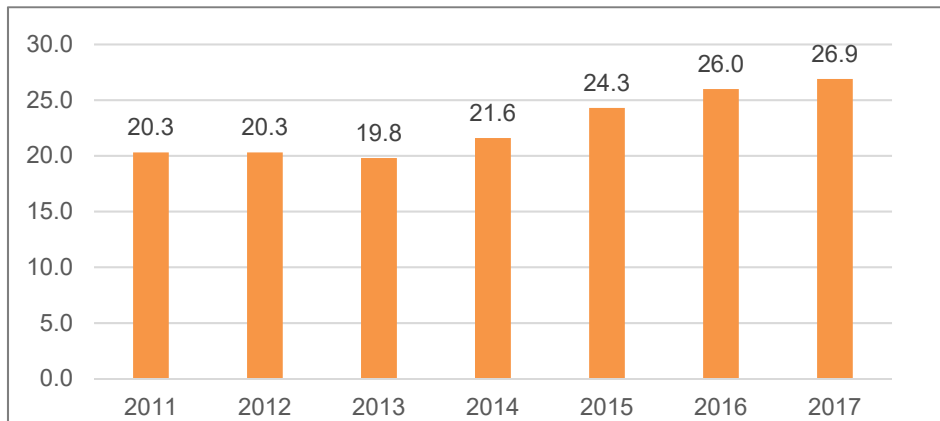
年	金額による市場規模 (単位:億ユーロ)
2011	20.3
2012	20.3
2013	19.8
2014	21.6

2015	24.3
2016	26.0
2017	26.9

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

参考 1 に示した過去 7 年間の推移をグラフで示したものが図 C である。金額で示される市場規模は拡大傾向にあることがわかる。

図 C 自転車市場規模の過去 7 年間の推移(単位：億ユーロ)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

更に、2017 年の全業態の平均販売価格(電動自転車を含む)は、前年比 8.6% 高の 689 ユーロ(89,570 円)に上昇した。平均販売価格の過去 10 年間の推移を表 3 に示す。

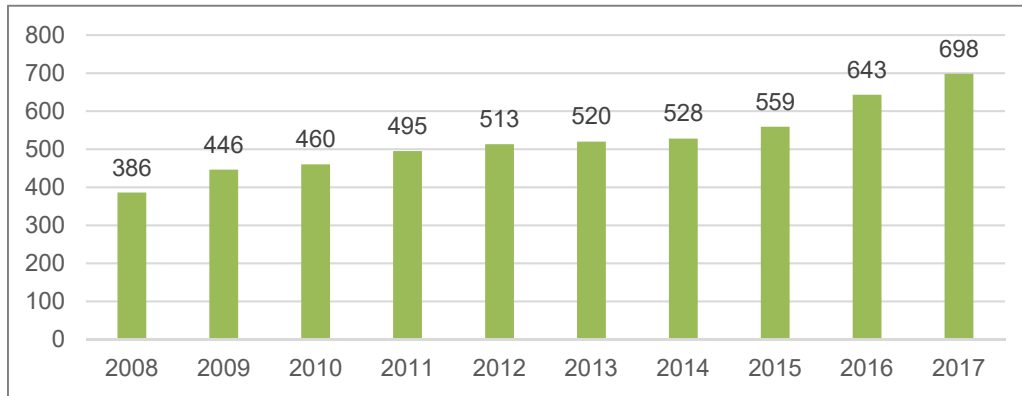
表 3 平均販売価格の過去 10 年間の推移

年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
全業態平均販売価格 (単位：ユーロ)	386	446	460	495	513	520	528	559	643	698

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表 3 に示した平均価格の過去 10 年間の推移をグラフで示したものが図 D である。平均販売価格は上昇傾向にあることが明らかである。

図 D 平均販売価格の過去 10 年間の推移 (単位 : ユーロ)



出典 : ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

生産台数が減少傾向にあり、出荷台数が増加していない状況であるにも関わらず、自転車市場規模は金額面で増加を続け、なおかつ、平均販売価格が年々上昇している理由は、単価の高い電動自転車の販売増加が続いているためとみられる。

2. 輸出

2017 年の輸出台数(電動自転車を含む)は前年比 0.9%増の 116 万台であり、前年よりわずかに増加した。ドイツの自転車輸出台数の過去 10 年間の推移を示したのが表 4 である。

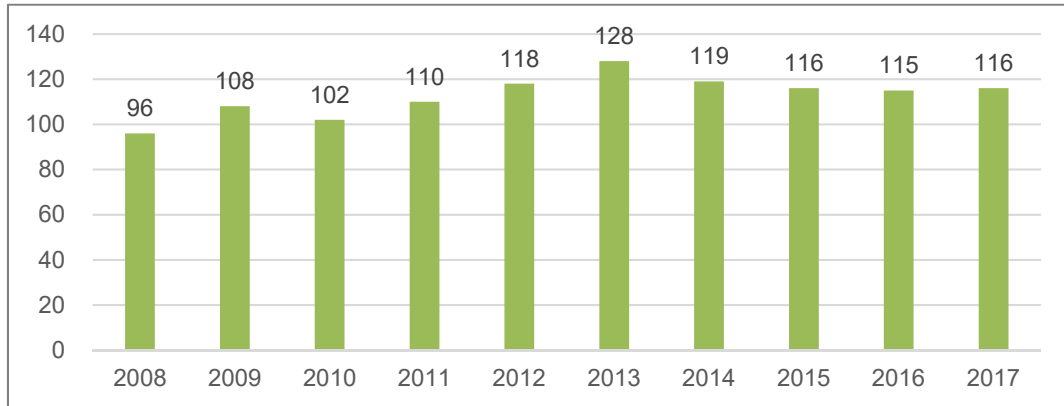
表 4 ドイツ自転車輸出台数の過去 10 年間の推移

年	輸出台数(単位:万台)
2008	96
2009	108
2010	102
2011	110
2012	118
2013	128
2014	119
2015	116
2016	115
2017	116

出典 : ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表 4 に示した輸出台数の過去 10 年間の推移をグラフで示したものが図 E である。台数面では堅調な状況が見て取れる。

図 E ドイツ自転車輸出台数の過去 10 年間の推移(単位：万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

また、2017 年の輸出金額(電動自転車を含む)は同比 5.6%増の 13.2 億ユーロ(1,716 億円)となり、5 年続けて増加した。ドイツの自転車輸出金額の過去 7 年間の推移を示したのが表 5 である。

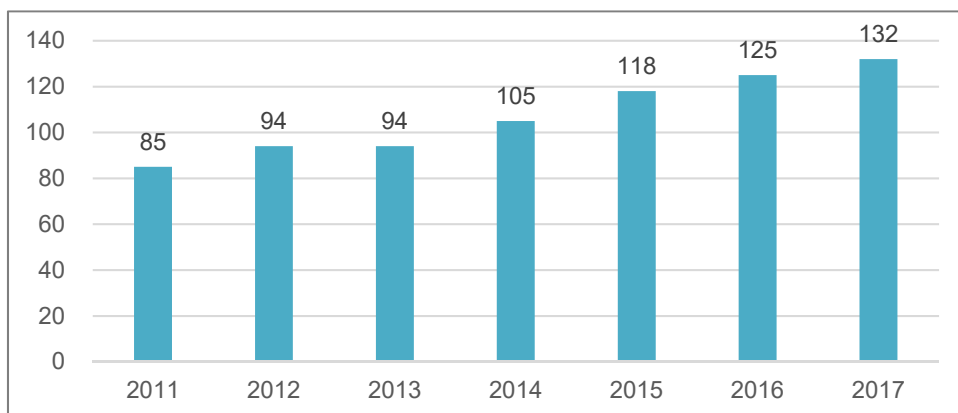
表 5 ドイツ自転車輸出金額の過去 7 年間の推移

年	輸出金額(単位:千万ユーロ)
2011	85
2012	94
2013	94
2014	105
2015	118
2016	125
2017	132

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表 5 に示した推移をグラフで示したものが図 F である。金額面では増加傾向にあることが明らかである。

図 F ドイツ自転車輸出金額の過去 7 年間の推移(単位：千万ユーロ)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

輸出の大半は欧州向けであり、台数でみた仕向地上位 10 カ国・地域の顔ぶれは前年と同じであったが、順位に若干の変動が見られた。最多輸出先はオランダで、全体の輸出台数に占める同国の台数割

合は前年より5ポイント増の28%を占め、特に高い増加率をみせた。それに次ぐオーストリアは1ポイント増の12%となったが、フランスは1ポイント減の7%となり、更にポーランドは2ポイント減の5%となり減少が目立った。

表6 ドイツ自転車輸出 総輸出台数に占める台数割合
上位10カ国・地域 過去5年間の推移

国名	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
オランダ	16%	19%	21%	23%	28%
オーストリア	9%	11%	12%	11%	12%
フランス	8%	7%	5%	8%	7%
スイス	4%	4%	4%	6%	6%
ポーランド	12%	12%	7%	7%	5%
スペイン	※	4%	4%	5%	5%
英国	2%	3%	3%	4%	5%
デンマーク	7%	4%	4%	5%	4%
ベルギー	7%	5%	4%	3%	3%
イタリア	3%	4%	4%	4%	3%
その他	32%	27%	32%	24%	22%

※その他に含まれる

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

3. 輸入

2017年の輸入台数(電動自転車を含む)は前年比4.1%増の329万台となり、再び増加に転じた。ドイツの自転車輸入台数の過去10年間の推移を表7に示す。

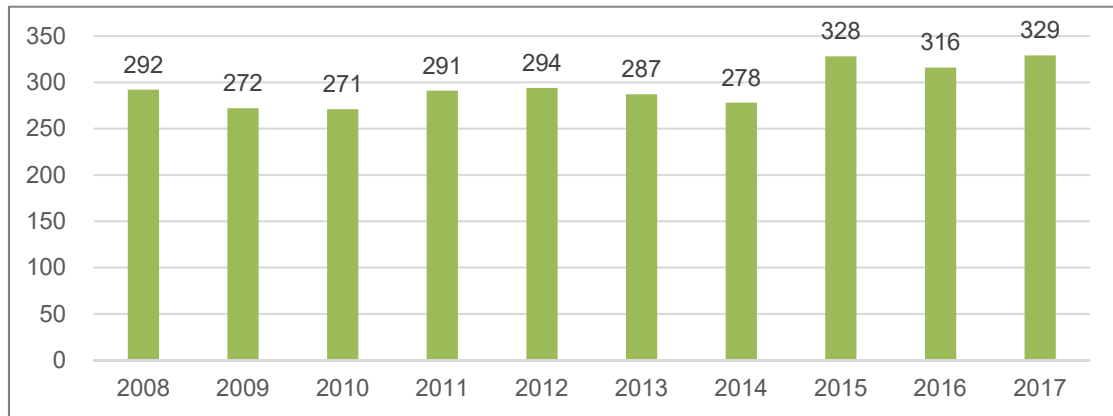
表7 ドイツ自転車輸入台数の過去10年間の推移

年	輸入台数(単位:万台)
2008	292
2009	272
2010	271
2011	291
2012	294
2013	287
2014	278
2015	328
2016	316
2017	329

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

この模様をグラフで示したものが図Gである。2014年までは300万台を下回る水準で推移していたのが、2015年以降300万台を超える水準に切りあがり推移していることがわかる。

図 G ドイツ自転車輸入台数の過去 10 年間の推移(単位:万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

次にドイツの自転車輸入金額の過去 7 年間の推移を表 8 に示す。

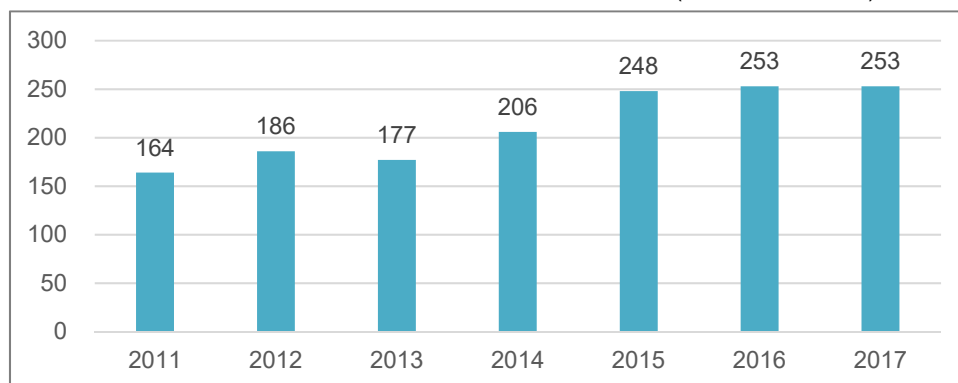
表 8 ドイツ自転車輸入金額の過去 7 年間の推移

年	輸入金額(単位：千万ユーロ)
2011	164
2012	186
2013	177
2014	206
2015	248
2016	253
2017	253

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

表 8 に示した推移をグラフで示したものが図 H である。2017 年の輸入金額は前年同様の 25.3 億ユーロ(3,289 億円)と前年比横ばいであったものの、7 年間の推移をみると増加傾向にあるようにも見受けられる。

図 H ドイツ自転車輸入金額の過去 7 年間の推移(単位：千万ユーロ)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

仕入先について見てみると、台数でみた仕入先上位 10 カ国・地域のうち、上位 5 カ国・地域は前年と同じ顔ぶれであった。

アジア地域では、最多仕入先のカンボジアは前年同様の 23%であり、台湾は 2 ポイント減の 6%と

低迷した。一方で中国は1ポイント増の5%と復調しバングラデシュは1ポイント増の5%となった。なお、昨年上位のスリランカは姿を消したが、フィリピンが3%で上位に現れた。現在、中国製自転車には48.5%のアンチダンピング(AD)税が課せられ、更に中国からの迂回行為が認定された地域にも同税が賦課されている影響もあるためか、アジア地域の仕入先は依然として変化が続いている。

欧州地域では、ポーランドが前年同様の13%で最多となり、ブルガリアは2ポイント減の11%と減少が目立った。前年に上位に再浮上したチェコ共和国は姿を消し、近年、欧州域内の製造拠点として再び注目が高まるポルトガルが4%となり、ここ5年間で初めて上位に食い込む等、欧州の仕入先も変化している。

表9 ドイツ自転車輸入 総輸入台数に占める台数割合
上位10カ国・地域 過去5年間の推移

国名	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
カンボジア	21%	19%	21%	23%	23%
ポーランド	9%	11%	11%	13%	13%
ブルガリア	6%	9%	9%	13%	11%
台湾	9%	9%	7%	8%	6%
オランダ	4%	5%	4%	5%	6%
中国	4%	4%	5%	3%	5%
バングラデシュ	※	※	4%	4%	5%
オーストリア	4%	※	4%	4%	4%
ポルトガル	※	※	※	※	4%
フィリピン	※	※	※	※	3%
その他	43%	43%	35%	27%	20%

※その他に含まれる

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

4. 販売業態別台数シェア

販売業態別台数シェア(電動自転車を含む)について、その過去10年間の推移を表10に示す。

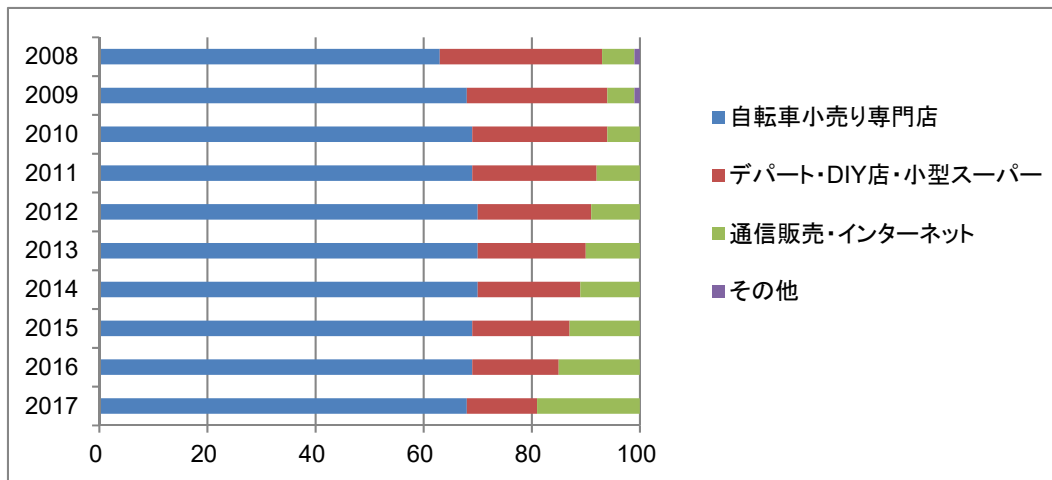
表10 販売業態別台数シェアの過去10年間の推移(%)

販売業態	自転車 小売り専門店	デパート・DIY店・ 小型スーパー	通信販売・ インターネット	その他
2008	63	30	6	1
2009	68	26	5	1
2010	69	25	6	0
2011	69	23	8	0
2012	70	21	9	0
2013	70	20	10	0
2014	70	19	11	0
2015	69	18	13	0
2016	69	16	15	0
2017	68	13	19	0

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

この模様をグラフで示したものが図1である。

図1 販売業態別台数シェアの過去10年間の推移(%)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

2017年には自転車小売専門店が前年より1ポイント減の68%となり、3年続けて7割の大半を割り込んでいるものの、依然7割程度を維持している。ドイツの消費者は電動アシスト自転車(EPAC)等の付加価値の高い商品を購入する際、専門知識を有する自転車小売専門店で適切なアドバイスを受け、試乗等により十分に吟味してから購入する傾向がまだまだ強いためとみられる。また、デパート、スーパーマーケットやホームセンター等の量販全体のシェアは昨年より3ポイント減の13%となり、継続的に比率が下がっている。一方、通販・インターネットは昨年より4ポイント増の19%となり、年々シェアを拡大している。そしてついに2017年には量販の比率を超える結果となったが、近年、インターネット販売がますます増加しているためとみられる。

5. 車種別販売台数シェア

表11に車種別の販売台数シェアの過去10年間の推移を示す。

表11 車種別販売台数シェアの過去10年間の推移

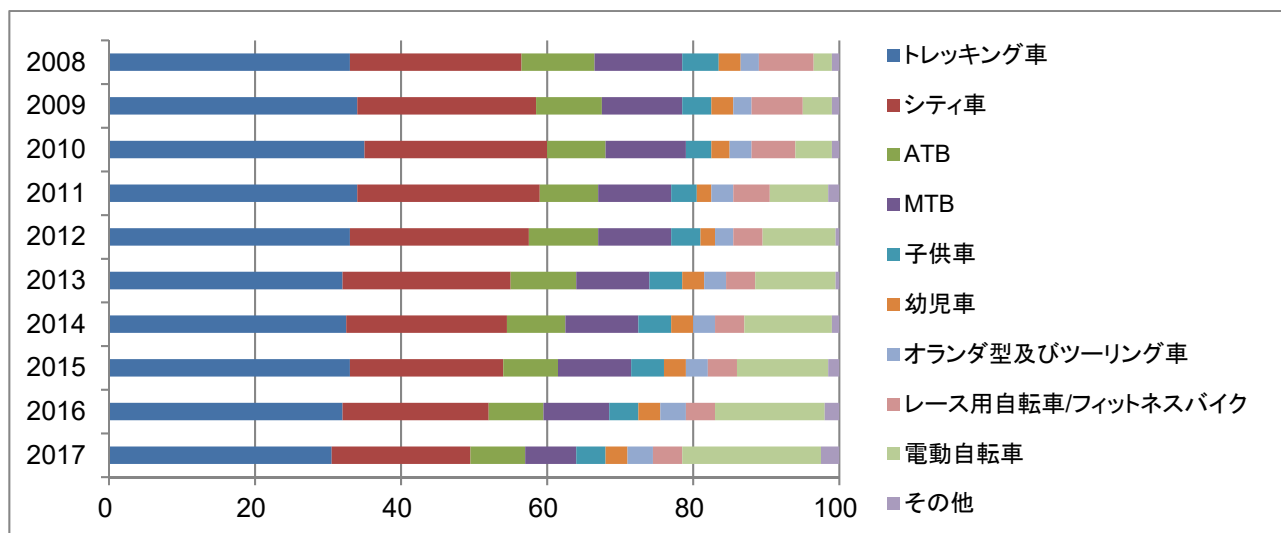
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
トレッキング車	33.0	34.0	35.0	34.0	33.0	32.0	32.5	33.0	32.0	30.5
シティ車	23.5	24.5	25.0	25.0	24.5	23.0	22.0	21.0	20.0	19.0
ATB	10.0	9.0	8.0	8.0	9.5	9.0	8.0	7.5	7.5	7.5
MTB	12.0	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	9.0	7.0
子供車	5.0	4.0	3.5	3.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.0	4.0
幼児車	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
オランダ型及びツーリング車	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.5	3.5
レース用自転車/フィットネスバイク	7.5	7.0	6.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
電動自転車	2.5	4.0	5.0	8.0	10.0	11.0	12.0	12.5	15.0	19.0
その他	1.0	1.0	1.0	1.5	0.5	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

2017年には、トレッキング車が前年より1.5ポイント減の30.5%となったものの、依然として最多シェアの車種である。それに次ぐシティ車は1ポイント減の19%である。MTBにライト、リフレクター及び泥除け等を装着したATB、レース用自転車、オランダ型及びツーリング車、子供車及び幼児車は前年同様のシェアを維持した。一方で、MTBは2ポイント減の7%と比率を減らした。なお、EPAC等の電動自転車は前年より4ポイント増の19%になった。電動自転車は昨年より比率が増えた唯一の車種であり、いまやシティ車とともに車種別第2位のシェアを占めるまでになった。

この模様をグラフで示したものが図Jである。電動自転車が継続的に増加していることがわかる。

図J 車種別販売台数シェアの過去10年間の推移(%)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

6. 電動自転車ブーム

2017年のドイツ国内の電動自転車の販売台数は前年比19%増の72万台となり、2ケタの増加率をみせた。表12にドイツの電動自転車の販売台数の過去5年間の推移を示す。

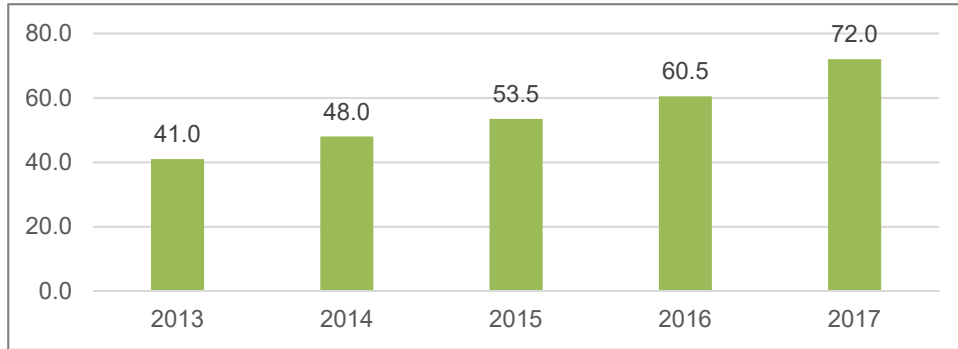
表12 ドイツの電動自転車の販売台数の過去5年間の推移

年	販売台数(単位：万台)
2013	41.0
2014	48.0
2015	53.5
2016	60.5
2017	72.0

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

この模様をグラフで示したものが図Kである。販売台数は増加していることがわかる。

図 K ドイツの電動自転車の販売台数の過去 5 年間の推移(単位 : 万台)



出典 : ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

更に欧州圏全体の販売台数は同比 17.6%増の 200 万台である。表 1 3 に欧州圏の電動自転車の販売台数の過去 5 年間の推移を示す。

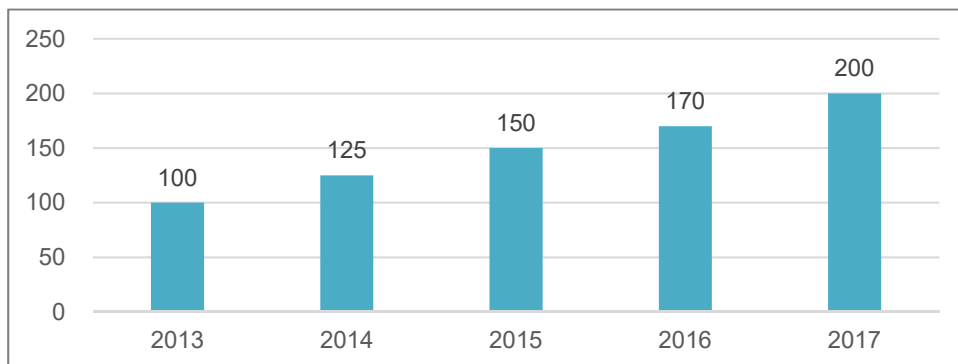
表 1 3 欧州圏の電動自転車の販売台数の過去 5 年間の推移

年	販売台数(単位 : 万台)
2013	100
2014	125
2015	150
2016	170
2017	200

出典 : ドイツ二輪産業協会(ZIV)

この模様をグラフで示したものが図 L である。やはり販売台数は増加していることが明らかである。

図 L 欧州圏の電動自転車の販売台数の過去 5 年間の推移(単位 : 万台)



出典 : ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

また、2017 年ドイツ国内の電動自転車の生産台数は前年比 33.5%増の 47 万台に増加した。参考 2 はドイツの電動自転車の生産台数の過去 5 年間の推移を示したものである。

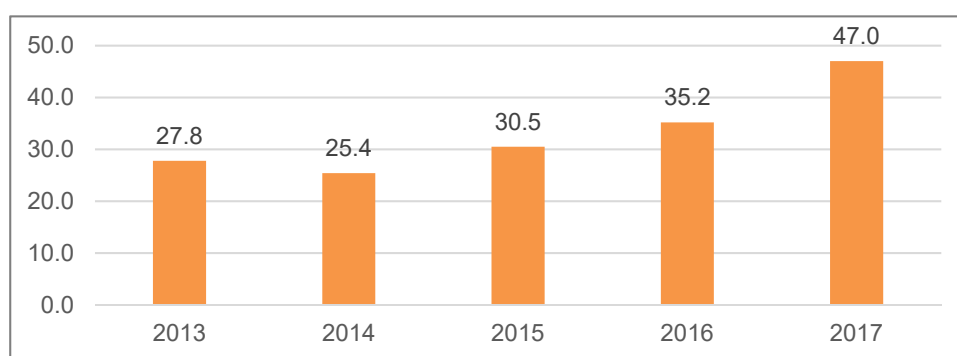
参考2 ドイツの電動自転車の生産台数の過去5年間の推移

年	生産台数(単位：万台)
2013	27.8
2014	25.4
2015	30.5
2016	35.2
2017	47.0

出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

この模様をグラフで示したものが図 M である。2014 年に一旦対前年比で減少した後、増加が続いていることがわかる。

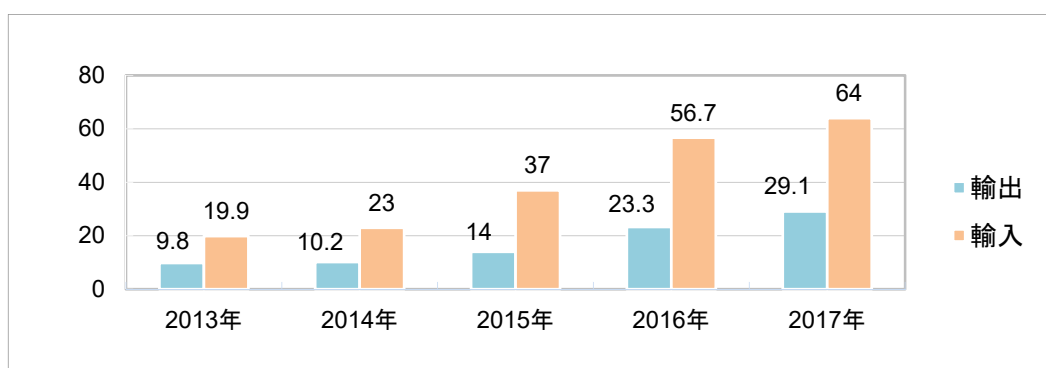
図 M ドイツの電動自転車の生産台数の過去5年間の推移(単位：万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

次に、参考3にドイツの電動自転車の輸出台数の過去5年間の推移を示す。

参考3 ドイツの電動自転車の輸出台数の過去5年間の推移(単位：万台)



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

2017年の輸出台数は対前年比24.9%増の29.1万台、輸入台数は12.9%増の64万台と輸出台数は共に増加した。電動自転車の仕入先の6割強はEU諸国からであり、残り3割がアジア地域である。国・地域別ではハンガリーからの輸入台数が全体の輸入台数の22%を占め、次いで中国から16%、ベトナム16%及びルーマニア11%等が仕入先上位となっている。仕向け先は殆どが欧州向けであるが、国・地域別の仕向け先では、オランダ向け輸出が全体の輸出台数の24%、フランス向けが16%、オーストリア15%及びスイス9%等となっている。

2017年は電動自転車に関する生産、販売及び輸出入等、全ての数値が2ケタの伸び率をみせてお

り、独市場における電動自転車ブームはまだ続くと ZIV は述べている。電動自転車の車種別販売シェアは、表 1 1 及び図 1 で示した通り 2017 年は 19%であったが、ZIV の予想では、中期的には 23～25%、長期的には 35%に達するとしている。

更に、2017 年の電動自転車のタイプ別販売台数比率について記す。電動自転車のタイプ別販売台数比率について、2017 年と 2016 年との比較を示したものが参考 4 である。

参考 4 電動自転車のタイプ別販売台数比率(%) 2017 年と 2016 年との比較

	2017 年	2016 年
シティ車	38.5	45.0
トレッキング車	35.5	35.0
E-MTB	21.5	15.0
運搬車	3.0	3.0
Speed Pedelects	1.0	1.0
その他	0.5	1.0

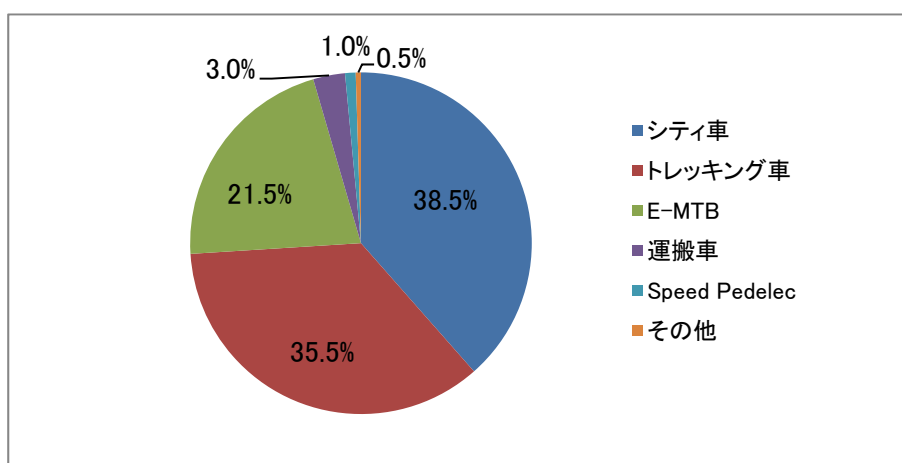
出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)

シティ車タイプが最多の 38.5%であるが前年より 6.5 ポイント減少した。それに次ぐトレッキング車タイプは 0.5 ポイント増の 35.5%となり、これら主として街乗りに用いられるもの 2 タイプで全体の 7 割超を占めている。最近、人気が高まるマウンテンタイプの E-MTB は、前年より 6.5 ポイント増の 21%と大きく伸びた。E-MTB はシティ車やトレッキング車タイプの電動自転車より販売価格が高いものも多く、E-MTB の販売比率の推移は今後も注目される。

なお、スイスやオランダで人気が高まっている Speed Pedelects については、前年同様の 1%にとどまり、ドイツ国内で販売される電動自転車の殆どは電動アシスト自転車(EPAC)である。

参考 5 は 2017 年の電動自転車のタイプ別販売台数比率をグラフで示したものである。

参考 5 電動自転車のタイプ別販売台数比率 2017 年



出典：ドイツ二輪産業協会(ZIV)、(一財)自転車産業振興協会

以上